



〈28〉



めがね橋(長姫橋)

材料には、廃城となった飯田城の城郭の石を使用。土族は建設のための寄付金を寄せた。橋は城の別名にちなんで「長姫橋」と名付けられたが、半円形のアーチの形から「めがね橋」と呼ばれるようになった。

飯田市中心街の一角。銀座 深い谷川で二分され、人々は一丁目と伝馬町二丁目をつなぐ橋は、一八七八(明治十一年)年に造られた石橋がルーツ。交通量の多い橋の下に立つと、名前の由来となった石造のアーチが見えた。

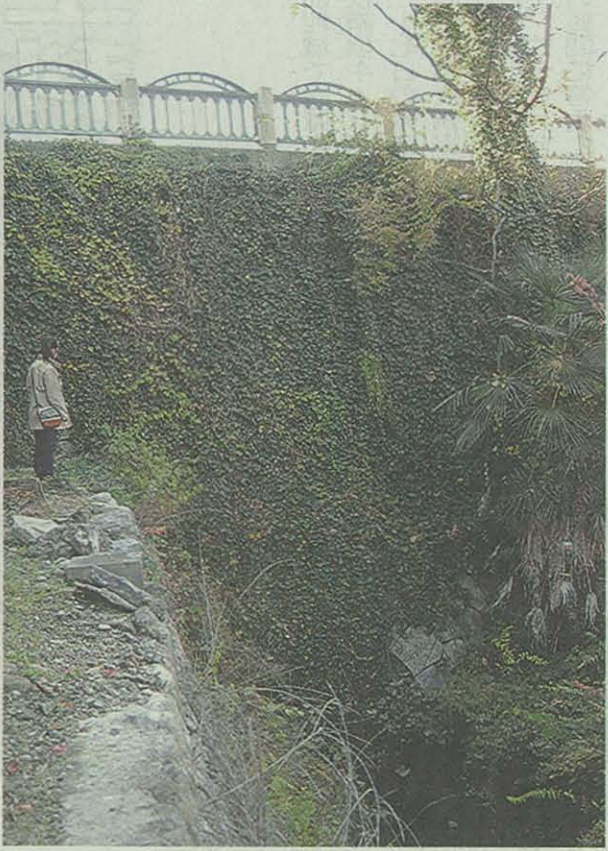
馬車が通れる橋は重宝され、飯田の町の近代化にも大きな役割を果たした。日本が大きく変わった時代、立場を超えて協力し合った人たちの思いが、一本の橋に結実した。

江戸時代、城下町の飯田は

田市の住民が担った。橋の

地域近代化一役果たす

めがね橋(長姫橋) (飯田市)



深い谷川に架けられた「めがね橋」。厚い盛り土の下に石造のアーチがある。飯田市内